

01 NEWS

秋川ファーマーズセンターで 買い物体験

3 すべての人に
健康と福祉を

あきる野市立五日市小学校の3年生約80人は6月9日、秋川ファーマーズセンターを訪れ、施設見学と買い物体験を行いました。清水聡センター長が、センターの役割や地元農産物の販売について説明し、児童たちからの質問を受け付けました。施設の見学後は、一人600円以内の予算で買い物をしました。児童たちは、買い物を通じて地元農産物や農業への理解を深めるとともに、お金の使い方や商品の選び方について学ぶ貴重な機会となりました。



農産物を購入する児童

02 NEWS

ドローン活用で遮熱対策

12 つくる責任
つかう責任

秋川ファーマーズセンターは6月12日、夏場の暑さ対策として、直売所の屋根に遮熱資材をドローンで散布しました。

同センターでは毎年、猛暑の影響で屋根が高温となり、建物内で販売している野菜や食品の温度が上昇することが課題となっていました。

昨年は屋根への散水により暑さをしのいだものの、水道料金の負担が大きかったことから、今年は遮熱資材「COOL-FX」を活用して屋根の温度上昇を抑える取り組みを実施しました。作業は栃木県の専門業者に依頼し、早朝にドローンによる散布を行いました。今後は効果を検証していきます。



ドローンを操作する担当者

03 NEWS

女性部手芸教室開催

3 すべての人に
健康と福祉を

女性部は、6月19日手芸教室を開き、「アウトドアコードでつくるマイ防災ボトルホルダー」づくりに挑戦しました。丈夫で多目的に活用できるアウトドアコードを編み込んでつくるボトルホルダーは、普段使いができるだけでなく、緊急時にはコードをほどいて応急処置や荷物の固定などにも活用できる防災グッズとなります。

参加者は、互いに教え合いながら作業を進め、完成した作品を手に笑顔を見せました。手芸を楽しむながら防災への意識を高める良い機会となりました。



完成した作品と女性部員

04 NEWS

新ブランド「武州放牧軍鶏」 初出荷

12 つくる責任
つかう責任

あきる野市在住の竹内信明さんは、放牧で育てた軍鶏（しゃも）の新ブランド「武州放牧軍鶏」を立ち上げ、5月下旬に初出荷を迎えました。10年以上にわたり軍鶏の飼育に取り組んできた竹内さんは、鶏本来の習性を大切にした飼育方法を追求し、放牧による新たな挑戦を実現させました。現在は約40羽を放牧飼育し、十分に運動できる環境を整えています。

竹内さんは「自分が理想とする最高の軍鶏を届けた」と笑顔で話しました。



軍鶏を呼び寄せる竹内さん

05 NEWS

あぐりスクール トウモロコシ収穫

3 すべての人に
健康と福祉を

7月11日、親子農業体験あぐりスクールを開き、参加した6家族15人がトウモロコシを収穫しました。

品種は4月に種をまいた「おおもの」で、収穫後に職員の勧めで採れたてをその場で試食しました。参加者は、強い甘みとみずみずしさ、シャキシャキとした食感に驚き、子どもたちは夢中になってトウモロコシを頬張り、会場は笑顔に包まれました。

参加者の一人は「以前、生で食べられるトウモロコシを求めて遠くまで買に行ったことがあったが、こんなに身近な場所で、食べられるとは思わなかった」と話しました。



トウモロコシを収穫する参加者

06 NEWS

第5回M-1(モロコシ) グランプリ開催

8 働きがいも
経済成長も

7月13日、JAの直売所運営委員会日の出地区出荷部会のスイートコーン生産者は、日の出支店で2026年「M-1(MOROKOSHI-1)グランプリ」を開き、生産者13人が参加しました。「早出し部門」は5月30日に初出荷した森田明さん、「重量部門」でも1本あたり540gを記録した森田さんが優勝し、見事2冠を達成しました。「糖度部門」はBrix濃度19.0%で馬場敏明さんが受賞しました。



出品した生産者

07 NEWS

ジャガイモそうか病対策

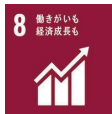
宮農部会は7月23日、檜原村のジャガイモ栽培で課題となっている「そうか病」の発生を抑えるため、土壌消毒試験を実施しました。

当日は都西多摩農業改良普及センター職員とJA職員が立ち会い、檜原村内の生産者圃場で土壌消毒剤「ガスタード」微粒剤を散布し、その後圃場をビニールで被覆しました。

今後は約1週間後に被覆を取り外し、8月中旬に秋ジャガイモを作付けし、生育状況やそうか病の発生状況を確認しながら試験結果を検証します。



薬剤散布後の圃場被覆



08 NEWS

女性部東秋留支部 盆踊り大会開催

女性部東秋留支部は7月23日、東秋留支店の駐車場で盆踊り大会を開きました。女性部員41人、職員14人と地域住民のお客様合わせて約200人が参加しました。

今年は、近隣住民へのチラシ配りや各地区にポスターを掲示するなど、宣伝に力を入れ、職員が飲み物販売とお子様向け当てくじ、焼きそばや焼き鳥、カツサンドなどさまざまな模擬店を出店しました。地元のカッちゃんカーも出店し、例年以上の来場者を迎え、大いににぎわいを見せました。



盆踊りを楽しむ女性部員



09 NEWS

あきる野夏まつりでJAをPR

8月1日「第21回あきる野夏まつり」に参加し、青壮年部、女性部とともに地元産農産物やJAをPRしました。

青壮年部は本店前でナスやエダマメ、花苗などの新鮮な農産物と焼きトウモロコシを販売しました。子ども向けにヨーヨー釣り、おもちゃ販売、金魚すくいを行い多くの来場客でにぎわいました。女性部は駅前大通りで流し踊りに参加し、谷澤俊明組合長を先頭に70人がそろいの浴衣で「あきる野音頭」「東京音頭」など全12曲を踊りました。



青壮年部の野菜販売



10 NEWS

女性部五日市支部 納涼女性部まつり

女性部五日市支部は8月5日、五日市会館において納涼女性部まつりを開きました。女性部員112人や招待した地域の高齢者17人、JA役職員ら計133人が参加しました。

女性部による歌や劇、盆踊りなどが披露され、それぞれの演目に日頃の練習の成果が感じられ、会場は終始笑顔と温かい拍手に包まれました。最後に五日市支店の神尾啓介支店長はじめ職員が、MILKの「好きすぎて滅」のダンスを披露し、会場全体が大きな歓声と手拍子に包まれました。



踊りを披露する女性部員



11 NEWS

健康づくり大会

女性部は8月20日、「第33回健康づくり大会」を本店で開きました。そろいの浴衣を着た全7支部の女性部員約195人が曲に合わせて入場し、やぐらのまわりに4重に輪を作りしました。「あきる野音頭」「日の出音頭」「新五日市音頭」など各地の曲を含む20曲を踊りました。

会場には女性部員のほか来賓やJA役職員、地域住民などのべ400人が訪れ盆踊りを楽しみました。

この大会はJA共済の地域貢献活動の一環で実施しています。



大勢の来場者でにぎわう会場



12 NEWS

檜原村 弘沢の滝ふるさと夏まつり

檜原村は8月22日、「第38回弘沢の滝ふるさと夏まつり」を開きました。会場の同村小学校の校庭では、桧原支店が出店し、桧原地区のじゃがいも栽培組合から出荷されたじゃがいもや経済センターで取り扱う商品販売し、地域住民をはじめ来場客にJAをPRしました。

舞台では歌謡ショーや檜原太鼓が披露されるほか、7月30日に開催された「檜原村じゃがいも品評会」の表彰式が行われ、同JAの谷澤俊明組合長より秋川農業協同組合長賞が授与されました。



表彰式

